

Google for Education

## 活用方法や成果の事例 ②

日本の学校や組織の革新的な学習環境づくりの取り組み



# Google for Education

## 1人1台。つながる授業のために Google のサポートをご活用ください。

Google の目標は、教育と学びの変革に取り組む教育者をサポートすることです。そのために、児童生徒一人ひとりに適した効果の高い教育 / 学習環境づくりに求められる時間、ツール、リソースを各学校が確保できるようにするためのプラットフォームを提供しています。

この冊子では Google for Education を実際に導入、活用されている全国の学校様へ取材させていただいた事例記事をまとめ、ご紹介させていただいております。

素晴らしい事例が沢山ございますので、今後の各教育機関様のお取り組みのご参考になれば幸いです。

Google for Education は今後も活用して下さっている皆様を引き続きご支援してまいります。



「テクノロジーだけで  
教育を改善できるわけではありませんが、  
ソリューションとして  
有効な手段の1つになりえます。」

スンダー ピチャイ  
Google CEO

# Google for Education

Google for Education のツールや端末を使用し、  
革新的な学習環境づくりに取り組んでいます。  
その活用方法や成果の事例をご覧ください。



Google が開発した学習向けパソコンで、軽量で耐久性が高く、ChromeOS で起動が速い。デスクトップ モードとタブレット モードの切り替えができ操作も簡単。安心安全なセキュリティで、管理、運用の手間を省けます。

## Chrome Education Upgrade

Google 管理コンソール上から端末の管理や運用も簡単に行うことができる端末管理ライセンス。ログイン ユーザーの制限や、テスト中に別のアプリやブラウザを開けないように設定でき、紛失・盗難時には簡単に端末を無効化できます。

## Google Workspace for Education

教員と児童生徒の双方向のコミュニケーションを実現する Google Classroom をはじめとしたさまざまなアプリケーションを利用でき、授業における協働学習や校務の効率化を図ることが可能です。

## Index

---

- 04 国公立
- 19 私立
- 22 お役立ち情報
- 23 お問い合わせ

---

### この冊子について

- ・掲載されている記事は取材当時の記事となっております。取材年は各ページの右下をご確認ください。
- ・Google Workspace for Education は Google Workspace と表記しております。
- ・掲載は五十音順です

Category 01

国公立

01



# 泉佐野市立第三小学校

大阪府泉佐野市旭町 4-6

[https://www.city.izumisano.lg.jp/shochugakko/es\\_daisan/index.html](https://www.city.izumisano.lg.jp/shochugakko/es_daisan/index.html)

## Society 5.0 の時代を生きる力を育むために 個別最適化された学びを実践する泉佐野市立第三小学校

大阪府の泉佐野市立第三小学校は、市の ICT 教育推進校として、GIGA スクール構想以前の早い時期から 1 人 1 台端末を含め教育への ICT 活用を進めてきた学校です。同市教育委員会では 2020 年に Google for Education の採用を決定し、Chromebook と Google Workspace を導入。これを受けて同校もそれまで利用していた端末を Chromebook に変更し、教育 ICT のさらなる高度化に取り組んでいます。本記事では同校と市教委の双方から話を聞きました。



### 背景・課題 Before

#### 2015 年に 1 人 1 台を先行開始し、新端末として Chromebook に移行

泉佐野市立第三小学校は、すでに 2015 年の夏、市の ICT 教育推進校として全国に先駆け 1 人 1 台のタブレット端末活用を始めていた経緯があります。2020 年 3 月、市教育委員会は GIGA スクール構想に対応する端末の検討を始め、6 月には Chromebook に決定し、11 月から市立学校各校で順次運用がスタートしました。これに対

し、同校の情報教育担当で校内研究担当も務める西川聡氏は、「Google のツールを使ったことがなかったので不安もありましたが、共有や同時編集などの機能は有効に使えると直感し、機能を勉強すればするほどワクワクしていったことを覚えています。Chromebook に関して、起動の速さには本当に驚きました」と話します。



情報教育担当・校内研究担当  
西川 聡 氏

### 導入のポイント Point

#### "毎日使わない時間はない" 日常に浸透した Google ソリューション

同校では、他社製品からの移行のため Google のツールに慣れていない教員も多く、活用を広げていくには苦労もあったといいます。ただ、教頭の岸和田谷浩氏が ICT に詳しく、職員会議のペーパーレス化を主導し、全クラスに Chromecast を設置して子どもたちの意見を共有できる環境をいち早く整備するなど、教員への浸

透を推進したことが大きかったといいます。その結果、Chromebook と Google Workspace が日常に浸透し、授業はもちろん委員会やクラブ活動、さらには子どもたちからの発信にも頻繁に利用されています。情報教育担当の柴田大翔氏は「毎日使わない時間はないですし、むしろ、ないと不便に感じてしまうほどです」と語ります。



教頭  
岸和田谷 浩 氏



情報教育担当  
柴田 大翔 氏

### 導入効果・活用 After

#### 子どもたちの授業や教員の業務面でさまざまな効果が出ている

同校は全クラスで Google Classroom を活用していますが、支援学級でもよく利用しています。支援学級を担当する野間田恭子氏は「授業の流れをあらかじめ配信することで、その時間にどのような力を身につけるかを子ども自身が意識しやすくなり、授業全体を見通したうえで効率よく学習できるようになりました」と話します。一方、西

川氏は教員の業務に触れ、「教頭の主導で始まった会議のペーパーレス化が進み、職員会議だけでなくグループの研究会議などでも Google Chat を利用しています。授業準備も Google Classroom を活用していることで、印刷する業務が圧倒的に減り、その時間を教材研究や校務で有効に使えるようになりました」と評価します。



情報教育担当  
野間田 恭子 氏



※2022 年取材



泉佐野市立第三小学校 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-daisan-es.pdf>





# 札幌市立定山溪小学校

北海道札幌市南区定山溪温泉東 4 丁目 308

<https://www.jozankei-e.sapporo-c.ed.jp/>

## Chromebook と Google Workspace を駆使し、 特別支援学級に多彩なコミュニケーションの機会を生み出す

全国的に名の知られる北海道・札幌市郊外の定山溪温泉の一角に、札幌市立定山溪小学校があります。全校児童 20 人（うち、特別支援学級 2 人）の小規模校ですが、その規模を活かしたフットワークの軽さで、教育への ICT 活用に市内でも先行して取り組んでいます。通常学級・特別支援学級の双方で Chromebook と Google Workspace の積極的な利活用が進む中、今回は特別支援学級での取り組みに焦点を当てました。



### 背景・課題 Before

#### 特別支援学級でも 1 人 1 台の Chromebook と Google Workspace を活用

札幌市では、市内約 300 校の小中学校の児童生徒と教員に Chromebook を導入し、Google Workspace を活用した教育 ICT の取り組みを進めています。特別支援学級 2 人を含めて全校児童 20 人・教員 7 人の定山溪小学校でも 2021 年 4 月、通常学級・特別支援学級の双方に 1 人 1 台の Chromebook が配布されました。

特別支援学級の担任を務める平間健介氏は、「最初のうちは Chromebook と Google Workspace をどのように使っていけばよいのかイメージが湧きませんでした。OS もこれまでとは異なるため、本音としては戸惑いもありましたが、とにかく自分でいろいろ試すところからスタートしました」と振り返ります。



教諭  
平間 健介 氏

### 導入のポイント Point

#### "つながりをもてる" ことが Google のソリューション最大の強み

平間氏は Chromebook と Google Workspace を実際に試していく中で「便利だと感じる機能をいくつもつけていきました」と話します。平間氏が感じた Google ソリューションの一番の強みは「つながりをもてること」だと指摘します。「ファイル 1 つをとっても他の児童と一緒に作業ができるといったつながりをもつこ

とができ、共有も最新の状態で行えます。子どもたちは常にリアルタイムのものを見ながら作業でき、教員もすぐにアドバイスできる上、共有しておけばデータの送り忘れも起きません。そうしたさまざまな点で、Google のソリューションの便利さを実感していきました」と平間氏は説明します。



### 導入効果・活用 After

#### 特別支援学級でとりわけ大切なコミュニケーションを積極的に促進

児童数の少ない同校では、他校との交流に Google Meet を活用しています。「通常学級もそうですが、特別支援学級ではコミュニケーションが特に重要です。児童が自立を目指してさまざまな困難を主体的に克服する知識や技能、態度を養うために学校生活の中でコミュニケーションを学びます。しかし、狭いコミュニティ内だけでは能力を伸ばしていくのが難しいため、他校

との交流には力を入れています」と平間氏。以前であればバスに乗って近隣の小学校を訪れていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で交流が難しくなりました。Google Workspace と Chromebook が導入されたことで、特別支援学級間の交流もより活発化しているといいます。



※2022 年取材



札幌市立定山溪小学校

事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-jozankei-es.pdf>



# 野田市立みずき小学校

千葉県野田市みずき 3-2-3

<https://schit.net/noda/esmizuki/>



## ICT が身近な文具として浸透する野田市立みずき小学校 主体的学びや情報発信、コミュニケーションにプラスの影響を生む

千葉県の最北西端に位置し、醤油の産地として全国的に知られる野田市。同市では「NICT (野田 ICT)」という独自の ICT 活用プロジェクトを推進し、教育への ICT 導入を積極的に実践しています。その野田市において NICT 教育推進事業のパイロット校に選ばれ、他校に先駆け Chromebook と Google Workspace の導入を進めたのが、野田市立みずき小学校 (校長 梅建氏) です。



### 背景・課題 Before

#### パイロット校として Chromebook と Google Workspace を先行導入

野田市教育委員会が GIGA スクール構想に対応するソリューションとして Google for Education を選定したことを受け、みずき小学校は 2021 年度の NICT 教育推進事業のパイロット校 (研究指定校) に指定されました。その関係で、1 人 1 台端末の本格スタートを迎える前年度の 2020 年度に、1 クラス分の Chromebook

と Google Workspace が先行導入されていました。2020 年度に同校へ赴任する以前、市教委で ICT 担当の仕事をしていた教頭の瀬戸芳男氏は、市教委が選定する以前から Chromebook がふさわしいと考えていたそうです。「とにかく起動が速く、かつ安価なところに魅力を感じました」とその理由を語ります。



教頭  
瀬戸 芳男 氏

### 導入のポイント Point

#### コンパスなどの文具と同じ感覚で ICT を授業に活用する

同校で教育に ICT を導入していくにあたり目指したのは「文具化」です。瀬戸氏は「主体的な学びを進めていくうえで、パソコンを使うことにこだわり過ぎる授業はしてほしくないと思いました。ですが、たとえば円を描くとき、コンパスがあったらいいと思うはず。それと同じく、パソコンがここにあればいいと思えるような授業

をつくっていかなければならない」と話します。教諭の河野明子氏は、当初は不安があったといいます。まずは使ってみようと思ったそうです。「少しずつわかっていくのが楽しく、使い方がどんどん広がっていきました。この機能を試すとういう活用ができた、といったように、毎日が発見の連続でした」と振り返ります。



教諭  
河野 明子 氏

### 導入効果・活用 After

#### さまざまな授業で広がる多彩な使い方

2021 年 4 月の本格導入開始から 1 年数か月の成果として、瀬戸氏は「学習における文具化が図られた」と評価します。具体的エピソードを河野氏が紹介してくれました。「印象的な出来事として、発する言葉に自信を持って、普段口数の少ない児童が、Chromebook でならすらすらと素敵な文章が打てることがわかり、それをき

かけに自信を持つようになったことがありました。間違っても打ち直せばいいため、気軽に表現できることが効果的だったのでしょう。ほかにも、国語の授業で Google スプレッドシートに意見を書いて共有する、社会の授業で動画を Google Classroom に貼り付ける、など多彩な利用法を編み出しています。



※2022 年取材



野田市立みずき小学校 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-noda-mizuki-es.pdf>



# 鹿角市立十和田中学校

秋田県鹿角市十和田毛馬内字上土ヶ久保 22 - 1

<http://www.ink.or.jp/~tochu/>

## 「Chromebook と Google Workspace を使わない日はない」 鹿角市立十和田中学校が先駆的に進める ICT 活用スタイルとは

2021 年に世界遺産登録されたストーンサークル「大湯環状列石」（「北海道・北東北の縄文遺跡群」の 1 つ）や、「きりたんぼ」発祥の地として知られる秋田県鹿角市。豊かな自然と文化に恵まれた同市の市立十和田中学校は、GIGA スクール構想による 1 人 1 台端末導入後、県内を牽引する ICT 活用の多彩な先行事例が生まれている、生徒数 200 人規模の学校です。Google for Education を導入して進む同校の取り組みについて、ICT 担当教員のお話を交えながら紹介していきます。



### 背景・課題 Before

#### Google ソリューションが教育での利用に向いていることを実感

GIGA スクール構想に対応する児童生徒 1 人 1 台端末として、鹿角市教育委員会は Chromebook を選定しました。十和田中学校の ICT 担当を務める小松裕太氏は「私も含めて Chromebook は使ったことがなく、戸惑いや不安のようなものはありました」とのことですが、実際に触れてみると使いやすく「私たちが使いやすいという

ことは生徒にとっても使いやすいだろうと想像できたので、Chromebook を採用してよかったと直感しました」と話します。併せて導入した Google Workspace についても「作業内容がクラウドに自動保存される点が非常に便利で、共有もできるので教育での利用に向いていることを実感しました」と評価します。



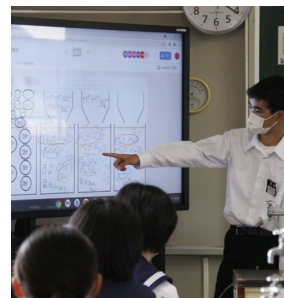
教諭 研究主任  
小松 裕太 氏

### 導入のポイント Point

#### "とにかく触ってみる" 姿勢で導入・活用がスムーズに進む

2021 年 4 月、全生徒分と教員共用分の Chromebook が配布（2022 年度には全教員に配布）され、その直後から各教員が Chromebook と Google Workspace の機能を積極的に試していったといいます。できることや便利になることに 1 つ 1 つ気づいていった結果、導入段階ではとくに苦労せず活用が広がっていったと振り返ります。そ

してさらにもう 1 点、同校で導入・活用がスムーズに浸透するきっかけとなった取り組みがあります。小松氏が、自身の授業で試した Google Workspace 各アプリの機能や工夫のアイデアを ICT 活用通信としてまとめ、他の教員向けに地道に発信し続けました。2021 年度には、その数は 54 号に達しています。



### 導入効果・活用 After

#### Google ソリューションの効果的な活用が生徒の授業への姿勢に変化をもたらす

Chromebook と Google Workspace を使い始めてからは、生徒の積極的な姿が以前に増して見られるようになり、実際にアンケートでほぼ 100 % の生徒が「Chromebook を使った授業は楽しい」「もっと増やしてほしい」と答えているといいます。一方、教員側のメリットとして、生徒や保護者のアンケート集計が格段に便利になった点、授業内容や教材、職員会議資料など

を簡単に共有できるようになった点、そしてペーパーレス化が進み印刷等のコストが減った点を小松氏は挙げました。「生徒たちが「十和田中学校で学んだ 3 年間は楽しかった」と自信をもって言える学校を目指すとともに、「秋田県で ICT といえば十和田中学校」といわれるような教育環境もつくっていきたいですね」と、未来に向けて思いが高まっています。



※2022 年取材



鹿角市立十和田中学校

事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-towada-jhs.pdf>





# 甲府市立城南中学校

山梨県甲府市大里町 2590 - 1

<https://jonan-j.kofu-ymn.ed.jp/>

## Google Workspace 導入で ICT 化が一気に進展 Chromebook が "なくてはならないもの" に

山梨県の県庁所在地・甲府市は、GIGA スクール構想の推進にあたって Google for Education を採用し、市立の各小中学校に Google Workspace と Chromebook が導入されています。甲府市立城南中学校は生徒数が県内最多の約 800 人という大規模中学校で、市から ICT 推進校の指定を受け、教育での ICT 活用が進んでいます。同校で取り組みを牽引する教員に話を伺いました。

Chromebook  
840 台  
(生徒・教員含め) + 予備機



### 背景・課題 Before

#### 市の ICT 推進校というポジションを活かし、積極活用をスタート

城南中学校は、GIGA スクール構想が動き出す以前は、ICT 活用がそれほど進んでいなかったといいます。同校情報主任の野木紹吾氏は「教員側の意識としてまだ ICT を活用していこうという方向に向かっていなかったこともあります。当時は各教室にテレビが 1 台とノート PC が 1 台入っていた程度で、ハードウェア面でも

整備されていませんでした」と説明します。市教育委員会が Google for Education の採用を決定し、1 人 1 台の Chromebook が同校に届いたのが、2021 年春のこと。Google Workspace のアカウントも用意され、ICT 推進校として他校に先駆け同年 6 月から利活用をスタートしました（他校は 10 月から一斉利用開始）。



情報主任  
ICT 活用推進リーダー  
野木 紹吾 氏

### 導入のポイント Point

#### 使い方を覚えたベテランが授業での活用法を若手に伝えるシーンも

Google for Education を利用した印象としては、「シンプルで使いやすく、ハードからソフトまで Google のソリューションとして一貫している点、それゆえにアプリ間の連携が優れている点、そしてセキュリティ面でも生徒たちの使用状況を可視化できる点に良さを感じています」と野木氏。最初こそ ICT 活用に積極的でなかったベテランの教員たちも Google の Kickstart

Program の受講や教員たちに向けた多種多様な取り組みの結果、進んで使うようになっていったといいます。「ベテランの教員は教育経験が豊富で、授業づくりや生徒への教え方にも長けているので、慣れてしまえば、むしろベテランのほうが効果的な活用をしています。授業での効果的な活用法を若手が教えてもらっているシーンもよく見ました」（野木氏）。



### 導入効果・活用 After

#### 教員の業務負荷軽減、働き方改革にも大きな効果

同校では、Google Classroom を積極的に活用しています。2021 年の導入直後の時期に、まず各教室でクラスルームを作成。それが分散登校期間中の連絡手段として活躍したことから、有用性に気づいた教員たちが次々とクラスルームを作り始め、今その数は 130 を超えています。「当校は大規模校であるため、以前から

情報共有には課題を感じていました。この点についても Google for Education の導入で大きく変わり、むしろ情報共有が活発化してきたと感じています」と野木氏。従来約 800 の家庭から集めた紙の書類を処理・集計していた手間がなくなり、教員の業務負荷軽減、働き方改革の部分でも大きな改善があったといいます。



※2022 年取材



甲府市立城南中学校 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-jonan-jhs.pdf>



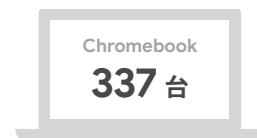
# 相模原市立中野中学校

神奈川県相模原市緑区中野 960 番地

<http://www.sagamihara-nakano-j.ed.jp/>

## GIGA スクール推進校として Chromebook を先行導入 組織全体での ICT 活用推進で多様な成果につなげる

神奈川県北西部にある相模原市立中野中学校は、全校生徒約 300 人の中規模校です。津久井湖の湖畔に位置し、自然豊かなロケーションが特徴です。同校は GIGA スクール構想を牽引する市の推進校として、新型コロナウイルスの感染拡大が始まって間もない 2020 年 6 月から Google Workspace を先行導入し、教育への ICT 活用に力を入れてきました。同校で推進役を担う 2 人の教員に話を伺います。



### 背景・課題 Before

#### 生徒たちの主体的な行動や発信力が高まることを期待

新型コロナウイルスの感染拡大が始まった 2020 年、相模原市では GIGA スクール構想を前倒して実施するため、ICT 活用事例の起点となる推進校として中野中学校を選びました。同校は自然豊かな環境にあり、穏やかな生徒が多いと、総括教諭・教務主任で GIGA スクール構想の推進リーダーを務める梅野哲氏は話します。一方

で、主体的に発信する姿勢が積極的に見られないことが課題だったと梅野氏。ICT の活用で主体的な行動や発信力が高まることを期待したといいます。1 人 1 台端末として Chromebook が前倒して同校に配布されたのは、2020 年 9 月のこと。まずは 3 年生分から配布をスタートし、10 月には 1、2 年生にも配布されました。



総括教諭 教務主任  
梅野 哲 氏

### 導入のポイント Point

#### リモート修学旅行など実際には難しい体験をオンラインで実現

最初の数か月は、どう活用すればいいのか手探りの状態だったといいます。転機となったのは、Google Meet に着目したことです。この年の修学旅行は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できませんでした。そこで、「Google Meet を使えばリモート修学旅行が可能になると考え、2020 年秋、広島の中学校とオンラインでつ

ないからです。広島から中学生がライブで平和記念公園を紹介してくれたほか、本校生徒が作った折り鶴を送って現地で献納してもらった様子をリアルタイムで見たり、オンラインで合唱をしたりといった交流を行いました。これをきっかけに、Google Meet の活用が広がっていきました」と梅野氏は振り返ります。



### 導入効果・活用 After

#### 各種ツールを有効活用し、生徒の主体性が伸びてきたことを実感

2021 年から、さまざまなシーンで ICT の利活用が普及していきました。授業では、Google ドキュメント、Google スライド、Google フォームが主に使われていると、梅野氏とともに ICT を推進する岡本一朗氏は説明します。また、授業だけでなく委員会や部活動、生徒の自治活動でも多彩に活用されています。教員たちにもさ

まざまなメリットをもたらしており、Google フォーム、Google Classroom、Google スプレッドシートを活用した情報の共有と記録。生徒の意見集約、集計、結果のフィードバックがスピーディーに行えるようになったほか、各種アンケートやテストの実施にかかる手間も大きく減りました。



教諭  
校内研究主任  
岡本 一朗 氏



※2022 年取材



相模原市立中野中学校

事例資料はこちらからダウンロード

[https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-sagamihara\\_nakano.pdf](https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-sagamihara_nakano.pdf)



# 下仁田町立下仁田中学校

群馬県甘楽郡下仁田町下仁田 26

<https://shimonita.ed.jp/shimonita-jhs/>

## 自治体と密に連携し、町の未来づくりの視点も加えて Google Workspace による ICT 活用を推進する下仁田中学校

自然豊かな農山村である群馬県下仁田町は、人口約 6,700 人、小中学校は町立校が各 1 校ずつという小さな町ですが、教育における ICT 導入においては先進的な自治体です。Google for Education を導入した下仁田中学校でも、町教育委員会との二人三脚で 1 人 1 台の Chromebook と Google Workspace の活用が活発に進められています。



### 背景・課題 Before

#### 教育における ICT 導入に積極的に取り組む下仁田町

下仁田町では、県下の他の市町村に先駆けて ICT 環境を整備。町教育委員会のリードのもと、町内唯一の中学校である下仁田中学校でも ICT 活用を先進的に進めてきました。同町がなぜ、教育での ICT 導入にそこまで積極的に取り組んだのか、下仁田町教育委員会 教育課 学校教育係長の佐藤敦保氏はこう語ります。「人口流出

が深刻な課題となっており、町として何か特徴を作らなければならないとの思いがありました。ICT のスキルのある子どもたちが育っていけば、町に魅力が生まれ、外に出た人たちが町に戻ってきてくれるかもしれない。そうした観点から、ICT には大きな可能性があると考えたのです。



教育課 学校教育係長  
佐藤 敦保 氏

### 導入のポイント Point

#### GIGA スクール構想に先行して生徒・教員に Chromebook を配布

同校では町が教育の ICT ソリューションとして Google for Education を採用したことに伴い、2017 年秋から生徒・教員に Chromebook と Google Workspace を導入しました。佐藤氏は Google のソリューションを選定した理由について次のように説明します。「ICT 導入の検討を開始した 2016 年当時から Google に着

目しており、「未来の Google を下仁田からつくろう」という目標を掲げ、スタートアップがどんどん生まれる町を目指して ICT を軸に町おこしをしていこうと考えていました。具体的に端末を他社製と比較したときも、Chromebook は管理面・費用面で優れており、町側からすればメリットしか感じませんでした。



### 導入効果・活用 After

#### 教員が試行錯誤しながら授業での利活用を進める

Google for Education を活用することで感じる変化について、数学の大内直也氏は「振り返り」の効果を強調します。「過去の自分と比べられるようになりました。小学校の頃の学習と比較し、中学校の授業で新たな解法を知ることによって簡単に解けるようになった、という感想を書く生徒もいました。学習の良さを感じただけでなく、それを

言語化し、さらにクラス全体で共有できるようになった点が大きな変化ですね」教員の校務の部分でも Google Classroom や Google ドライブ、Google ドキュメント等を通じた課題・資料の共有が進み、ペーパーレス化と業務の効率化が進展していると、教員のみなさんは口を揃えて指摘します。



教諭  
大内 直也 氏

※2022 年取材



下仁田町立下仁田中学校 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-shimonita-jhs.pdf>





# 沼津市立大平中学校

静岡県沼津市大平 1144

<http://www.numazu-szo.ed.jp/oohira-j/>

## 生徒たちの充実した今と未来をつくり上げるため 多彩なシーンで Google Workspace を活用する

静岡県沼津市立大平中学校は、のどかな田園風景の只中に立地する、生徒数 86 人の小規模校です。「志」を大切に教育を展開しており、ICT 活用にも積極的に取り組んでいるのが特徴です。Google for Education を導入し、1 人 1 台の Chromebook と Google Workspace を活用する同校の取り組みについて、校長及び教員のみなさんから話を伺いました。



### 背景・課題 Before

#### 「どんどん使ってみよう」の思いが、早い時期から学校全体に浸透

大平中学校では、2021 年度から Chromebook 1 人 1 台の本格運用をスタートしました。校長の黒石泰司氏は、「当時は Chromebook を知りませんでしたし、Google のアプリケーションを使ったこともなかったので、きちんと使いこなせるか不安に思いました」と語ります。ところが、その不安は杞憂に終わります。2021 年 2

月、試験運用の位置づけで全校に Chromebook が導入され、当時の 3 年生を中心に活用を始めました。どんどん使ってみようという教員たちの志の高さもあり、Chromebook と Google Workspace の導入にほとんど苦労はなく、翌年度の本格的な運用へとスムーズに移行することができたと黒石校長は振り返ります。



校長  
黒石 泰司 氏

### 導入効果 1 After

#### 教員たちの日々の工夫と生徒のアイデアが相乗効果を生む

理科を担当する本田敦也氏は、「Google Jamboard や Google ドキュメントを使って生徒全員で考えを共有できるようになりました。生徒に実施したアンケートでは、これまではなかなか挙手して自分の考えを伝えられなかった生徒が『授業に参加しやすくなった』と答えており、他にも『みんなの意見をリアルタイムで見られるよう

になってよかった』『授業がわかりやすくなった』といった意見が出ています」と話します。また、総合的な学習の時間では、2021 年度の 3 年生が地域に水害が多いという課題を捉え、住民や行政と共に解決していくために個々で行える水害対策を提案。その際、Chromebook や Google Workspace をフル活用したといいます。



教諭  
本田 敦也 氏



### 導入効果 2 After

#### 校務や生徒会活動でも ICT の採用が活発に進む

授業以外に生徒会活動や部活動、また教員たちの校務の部分でも活用が進んでいます。とくに生徒会活動では、校内アンケートに Google フォームを積極利用しています。「全生徒が Chromebook を持っているのでアンケートを取りやすく、Google フォームなら集計作業もなくなるので、その時間を話し合いや他の活動に割くことができ

ます。生徒たちからも非常に便利だと好評です」と黒石校長。実は教員の校務よりも生徒会活動のほうが早くペーパーレス化したそうです。ほかにも生徒会活動では、専門委員会の委員長を決める際、登校できない場合は直接に Google Meet を使うシーンもあったとのこと。



※2022 年取材



沼津市立大平中学校 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-oohira.pdf>





# 姫路市立安室中学校

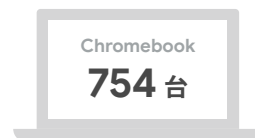
兵庫県姫路市田寺東二丁目 6 番 1 号

<https://www.city.himeji.lg.jp/school/category/7-4-0-0-0-0-0-0-0-0.html>



## Google Workspace の導入で業務改革を推進するとともに 生徒が主体的に ICT を活用していく未来づくりを目指す

兵庫県姫路市の市立安室中学校は、生徒数 745 人、通常学級と特別支援学級を合わせて 24 クラスに及ぶ市内有数の大規模校です。同校では市教育委員会が選定した Google for Education を導入し、1 人 1 台の Chromebook と Google Workspace を活用しています。GIGA スクール構想に対応して同校で進む取り組みについて、ICT 担当教員のみなさんから話を聞きました。



### 背景・課題 Before

#### Google for Education の採用で本格的な ICT 活用がスタート

安室中学校での本格的な ICT 活用は、2020 年 9 月に Chromebook が 3 年生に先行配布され、さらに 2021 年 1 月に 1、2 年生全員への配布が完了したことでスタートします。Google for Education の採用は市教育委員会の判断によるものですが、現場ではどのように捉えていたのでしょうか。同校 ICT 担当の安木孝

太氏は、「校務では他社の PC とアプリを使用しており、Google にも同様のアプリがあること自体知りませんでした」と話します。安木氏とともに ICT 担当を務める河部秀喜氏と前川理梨子氏も、当初は不安を感じていたようです。しかし、実際に使い始めるとそうした不安もすぐに解消され、活用はスムーズに進んだといえます。



教諭  
安木 孝太 氏



教諭  
河部 秀喜 氏

### 導入のポイント Point

#### まずは教員が「ICT ツールを触るしかない」環境をつくる

前川氏は、実は 2020 年度が教員 1 年目。学校で ICT 研修を受ける中で、「授業がもっとわかりやすくなるだろう」と実感し、とくにハードルもなく使い始められたと話します。一方、ベテランを中心に ICT が苦手な教員もいましたが、安木氏はペーパーレス化による印刷の手間軽減や電話応対削減など業務改善を前面に打ち出し、「ICT

ツールを触るしかない」環境の構築に取り組んでいったといえます。「ICT を使うのは、最終的には生徒たちの教育に役立てるためです。その前提として、まず教員が ICT に触る機会を創出するべく、2020 年度は 1 年間を通して ICT を使うモチベーションを高めていくことに力を入れました」(安木氏)。



教諭  
前川 理梨子 氏

### 導入効果・活用 After

#### 教員の業務改善をスタート地点に多彩な利活用のスタイルが広がる

2021 年 1 月に全生徒への配布が完了してから、一気に活用が進みました。学校全体では毎朝の検温を Google フォームで入力し、Google スプレッドシートで一元管理しています。「それまでは各生徒が紙で提出したものに教員が印鑑を押していたのですが、その部分の作業がなくなり、教員の負荷はかなり削減されました」と安木氏。

日々の授業での活用も進んでおり、ユニークな使い方が追求されています。「私自身は調べ学習の中で、SDGs に関するプレゼン資料を Google スライドで作成し、発表する取り組みを行いました。そのほか体育の授業や部活動で運動フォームを動画撮影し、あとから自分で確認するといった使い方もされています」(安木氏)。



※2022 年取材



姫路市立安室中学校 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-yasumuro-jhs.pdf>



## 久留米市立荒木中学校

福岡県久留米市荒木町荒木 1918 - 1

<http://www.araki-jh.kurume.ed.jp/>



## 久留米市教育委員会

福岡県久留米市城南町 15 番地 3

<https://www.city.kurume.fukuoka.jp/1060manabi/2020kyouiku/3070kyouikuiinkai/>



Chromebook  
408 台  
(久留米市立荒木中学校)

Chromebook  
28,493 台  
(久留米市教育委員会)

## ICT を活かしたグローバル & 未来志向の教育を実施し 市の ICT 活用を牽引する久留米市立荒木中学校

福岡県久留米市の南郊に位置する久留米市立荒木中学校は、2021 年に創立 75 周年を迎えた歴史の長い学校で、現在の生徒数は 374 人です。同校は久留米市の ICT 推進校として Chromebook と Google Workspace を先行導入し、その事例とノウハウによって市内各校の ICT 活用を牽引する立場にあります。同校の校長と ICT 担当、及び GIGA スクール構想に対応するソリューションとして Google for Education を選定した久留米市教育委員会の担当者に話を伺いました。



### 背景・課題 Before

#### 他校に先駆けて Chromebook と Google Workspace の活用を開始

久留米市では、市の小中学校全体で 1 人 1 台端末が始まる前年の 2020 年 10 月に、荒木中学校に 100 台の Chromebook と Google Workspace を先行導入しました。教育 ICT 推進課 指導主事の関和浩氏は Chromebook を選んだ理由について、「最大の理由は、学校現場、教育委員会の双方における運用管理の手軽さ

です。2 万 5,000 人の児童生徒に教員も加えた膨大なアカウントを管理するのは容易ではなく、効率的に管理できる仕組みが必要でした。加えて、教育でデータを活用するには徹底した情報セキュリティも大切です。Google のソリューションはその点でもアドバンテージがあると感じたのが、もう 1 つの大きな理由です」と話します。



指導主事  
関和浩氏

### 導入のポイント Point

#### 「新たな教育の大きな 1 歩」、その取り組みを市内各校に発信

校長の古賀幸雄氏は教育委員会で決定する以前は Google のソリューションについてほとんど知りませんでした。ただ、実際にデモ機を手にとったとき、起動の速さに驚き、協働編集などの機能に触れ、「新たな教育の大きな 1 歩を感じた」といいます。同校の ICT 活用コーディネーターで、教務担当主幹教諭を務める松田靖生氏も、

当初は授業でどう使っていけばいいのか悩んだといいます。しかし、Google Workspace の多彩な機能を知り、「複数生徒での同時編集や共有機能をうまく使ってみよう」と期待感が生まれました」と振り返ります。先行導入では各教科の教員が積極的に試用し、市内各校の ICT 推進リーダーを招いた公開授業も実施しました。



校長  
古賀幸雄氏



教務担当主幹教諭  
松田靖生氏

### 導入効果・活用 After

#### 協働学習・時間の有効活用など ICT 活用の効果を実感

松田氏は ICT 活用の効果について「導入当初は新型コロナウイルス感染症の影響で机をくっつけての班学習が難しかったため、Google Workspace のアプリケーションを使って生徒同士が近づかなくても班学習を進めることができることに特に有効性を感じました。また、紙

で実施していた小テストは、回収、採点・添削、返却のそれぞれに時間がかかっていましたが、Google フォームを利用することで時間を短縮でき、生徒はその時間を復習など有効に使っています。教員の手間や使用する紙の節約といった効果も出ています」と評価しています。



※2022 年取材



久留米市立荒木中学校 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-kurume-araki-jhs.pdf>



# 富山大学教育学部附属特別支援学校

富山県富山市五艘 1300

<http://www.fzks.fuzoku.u-toyama.ac.jp/>

## ICT 活用で障がいのある子どもたちの「個別最適な学び」を実現

富山大学教育学部附属特別支援学校は知的障がい児のための教育を行う学校で、小学部・中学部・高等部の3学部が設置され、計58人の児童生徒と、32人の教員が所属しています。同校では障がい児教育を先駆的に研究する富山大学の方針を受けて、2021年度から Google for Education を採用し、子どもたち1人1人の個性や多様性、障がい特性などの実態に合わせた ICT の活用に取り組んでおり、Chromebook を全児童生徒に配布しています。



### 背景・課題 Before

#### 大学の先駆的な障がい児教育研究を受け、ICT を積極活用

同校では、障がい児教育分野の研究が進む富山大学の主導により、以前から視覚的な支援ツールを活用する教育環境の整備に力を入れてきました。同校 中学部 情報主任の山崎智仁氏は、ICT が新たな支援ツールになることを期待していると話します。「障がいのある子どもたちは、聴くことより見ることが得意な場合も多く、目に見え

ないことを考えるのが苦手の傾向にあります。そうした部分を補うために ICT を使い、画面に手順を提示する、その日の活動内容を一覧で示す、活動の終わり時間を明示するといった支援を提供できます。同時に、子どもたち1人1人の多様な部分を支え育てる個別最適化のためにも、ICT は大切な役割を果たしてくれるでしょう」。



中学部 情報主任  
山崎 智仁 氏

### 導入のポイント Point

#### 幼稚園・小学部・中学部との共同利用に適した Google for Education

同校では 2021 年 4 月に Google for Education を導入し、Chromebook を全児童生徒と教員に配布しました。Google for Education 導入は富山大学の発案により、附属幼稚園・小学部・中学部との共同利用に適したものととして採択されたとのことです。選定の理由について、山崎

氏は次のように語ります。「Google Classroom による情報共有、Google ドキュメントや Google スライドを活用した情報教育の推進、Google ドライブや Chromebook のサンドボックスといった強固なセキュリティ面を重視し、総合的に選ばれたのではないかと考えています」。



### 導入効果・活用 After

#### 授業だけでなく、さまざまなシーンで利活用が進む

高等部で情報を担当する紺恵氏は、「言葉の意味を理解し、書くことに興味をもてるように、教師からのコメントに画像や顔文字を入れたことで、出来事や気持ちを表す顔文字や絵文字を自分で探し、生活記録を書く生徒がいました。文字を入力するだけでなく文字の色を毎回変える

生徒や、教師からのコメントへの返事を交えて書く姿も見られました。Google ドキュメントの共働編集によってコミュニケーションの幅が広がり、楽しい、難しい、苦手など、言葉で表せる思いが広がった生徒がいたことも大きな成果です」と語りました。



高等部 教諭 (情報担当)  
紺 恵 氏

※2022 年取材



富山大学教育学部附属特別支援学校 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-fuzoku.u-toyama.pdf>





## 信州大学

信州大学 教育学部 / 長野県長野市西長野 6 の口  
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/>



## 東北大学

TOHOKU UNIVERSITY

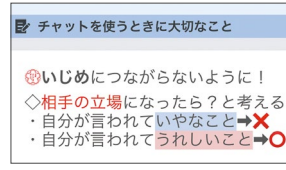
## 東北大学大学院

東北大学大学院 情報科学研究科 /  
 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3-09  
<https://www.is.tohoku.ac.jp/>



# 日常的な実践と失敗の繰り返しが育てる 「1人1台端末」時代のメディア・リテラシー

1人1台端末の導入や、SNS、オンライン会議、チャットなど様々なメディアが学校や家庭で使われるようになった現在、児童生徒は日常的に情報を発信する側になっています。メディアを通して情報を発信していることを自覚したうえでメディアの見方・考え方(メディア・リテラシー)を習得していく必要性が、一段と高まってきています。GIGA 端末として採用された Chromebook には、万が一に備え、安全性を担保する CEU (Chromebook のモバイル デバイス管理) が備わっているため、教室の中だけでなく、学校の外でも安全に利用できます。このような安全な環境下で情報発信の練習をするための方法やポイントについて信州大学の佐藤和紀氏、東北大学大学院の堀田龍也氏に伺いました。



児童が作成した「保護者に向けた提案」

### 背景・課題 Before

#### メディア・リテラシーの育成に必要なのは、日々の活用体験と適切な指導

「各メディアの何が便利で、どこにリスクがあるのかを知るには、日常的な実践が不可欠です」と語るのは、信州大学の佐藤和紀氏です。「安心・安全にメディアを使えるようになるには、メディアの特徴や注意点を意識しながら、実際に発信や受信を繰り返す体験が欠かせません。

しかし、一部の自治体や学校では端末やツールの使用を制限しており、児童生徒がメディア・リテラシーを身に付ける機会を狭めてしまっています。また、こうした活用体験は教員の適切な指導と共に行われるべきですが、指導方法に悩む教員も多いのが現状です」



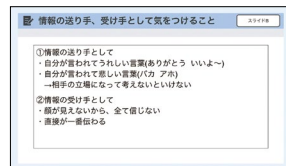
信州大学 教育学部 准教授 佐藤 和紀 氏

### 導入のポイント Point

#### 各メディアの特徴を活かした使い方を考える～ Google Chat を例に～

ある小学校では、児童同士での教え合い、行事、委員会活動等が活性化することから、Chat を日常的に使用しています。教員は Chat の特徴を理解させようとして、使用時の心構えを育てるために、Chat 使用時のルールを児童が自ら考え、Google スライドにまとめる授業を行いました。児童はグループでの話し合いの末、「自分

が言われて悲しい言葉は相手に対しても送らない」「直接会う時と比べて伝わる情報が少ないので、全ての言葉をそのままは信じない」といった意見をまとめたスライドを作成。Chat というメディアの特徴を理解することで、相手を意識したコミュニケーションを学んだことが伺えました。



児童が作成した「Chat 使用時のルール」

### 導入効果・活用 After

#### 教室での失敗こそ、メディア・リテラシーを育てる絶好の機会

児童生徒に端末やツールの積極的な活用を促すとすると、人を傷つけたり、誤情報を信じたりといったトラブルが心配かもしれません。しかし東北大学大学院の堀田龍也氏は、そうした失敗の大切さを強調します。「失敗の多くは、経験不足が原因。学校外で大失敗してしまう前に、教室で数多く失敗も含めた経験をさせてください」。また、失敗を学習機会にする方法として、児童生徒自身によるルール作りを勧めます。起きた失敗について「みんな

はどう思う?」「どんなルールが必要かな?」と考えさせる場が、1人ひとりのメディア・リテラシーを培います。佐藤氏、堀田氏は、メディア・リテラシー教育の事例集サイトを作成し、Chat の事例を含め、すぐに実践できる事例をたくさん紹介しています。授業の流れや教材のテンプレートも掲載されていますので、何から取り組めばよいかかわからない方も、サイトを参考に実践を始めてみてはいかがでしょうか。



東北大学大学院 情報科学研究科 教授 堀田 龍也 氏

※2022年10月取材

やってみよう! これからのメディア・リテラシー教育

Google for Education を活用した  
 メディア・リテラシー育成のための実践事例サイト



実践事例は  
[こちらをご覧ください](https://goo.gle/3bqiKrij)

<https://goo.gle/3bqiKrij>







東北大学

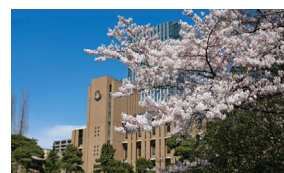
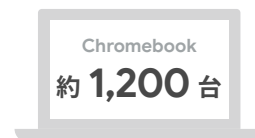
# 東北大学

仙台市青葉区片平二丁目 1-1

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/>

## Chromebook と Google Workspace の活用で 全学 DX を推進する東北大学の取り組みに注目

国立大学初の CDO (最高デジタル責任者) を創設し、さまざまな事務のオンライン化に着手するなど、デジタルによる変革に先進的に取り組む東北大学。同大学では職員用端末を Chromebook に置き換え、Google Workspace も導入して、全学を挙げた業務改革に取り組んでいます。他大学に先駆けてデジタル化・クラウド化を推進する東北大学の DX に迫ります。



提供: 東北大学

### 背景・課題 Before

#### 業務改革をスタート地点として、教育研究と大学の価値向上を目指す

東北大学では、学内のさまざまな業務をデジタル化・クラウド化し、どこでも仕事ができる環境づくりを推進しています。情報部 デジタル変革推進課 特命課長の藤本一之氏は次のように解説します。「やはり大きいのは、東日本大震災の経験です。地震で電気が止まると、サーバーやその上で動く業務システムも稼働せず、できることが大きく制限されてしまいます。BCP の観点で今後に備えるためにも、2011

年に DX の検討を開始し、デジタル化・クラウド化を進めてきました。2020 年 7 月には、CDO を国立大学で初めて創設。同時に職員約 60 人で構成される DX 推進プロジェクト・チームも発足しました。職員にとって働きやすい職場をつくり、教員が力を発揮できる環境を育むことで、世界最高水準の教育研究の実現につなげていくのが東北大学の DX の目指すところです。



情報部 デジタル変革推進課  
特命課長  
藤本 一之 氏

### 導入のポイント Point

#### 全学の業務基盤の端末として Chromebook を大量導入

東北大学の DX において大きな役割を果たしているのが、Chromebook と Google Workspace です。まずは 2019 年、クラウドの業務基盤として G Suite for Education (旧称) を全学で導入。2021 年 8 月には全事務職員の業務用端末を Chromebook に更新しました。その数は約 1,200 台に上ります。同課業務推進係長の川上翔

氏は、「コロナ禍とオンライン事務化に伴い Web 会議やテレワークのニーズが出てきたため、カメラとマイクが標準で搭載されている Chromebook に大きな優位性が生まれたことに加え、端末を紛失あるいは盗難された際もローカルにデータが残らないセキュリティの高さ、そしてコストの低さを考慮し、Chromebook を選定しました」と話します。



情報部 デジタル変革推進課  
業務推進係 係長  
川上 翔 氏

### 導入効果・活用 After

#### 業務改革の目に見える成果に、他大学からも高い評価を得る

これまでの定量的な成果としては、Google のソリューションを活用して学内照会フォームを抜本的に見直し、2 万 6,000 時間分の業務削減効果があったと藤本氏。Google フォームや Google スプレッドシートはさまざまな部署の業務に適用されているため、すべてを洗い出

せば削減時間はさらに大きくなり、ペーパーレス化の効果も相当に出ているのではないかと手応えを感じています。こうした成果は、大学 ICT 推進協議会 (AXIES) の 2021 年度年次大会をはじめさまざまな会議等で発表され、DX の先進例として他大学からも高い評価を得ています。



※2022 年取材



東北大学 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-tohoku-univ.pdf>



## Chromebook と Google Workspace for Education によって 「主体的で協働的な家庭学習」を創造する

変化が激しく予測困難な時代に自分らしく活躍するには、生涯にわたって、自立して学び続ける姿勢が求められます。しかし、教員に言われたことだけを学んでいるようでは、児童生徒が主体的に学力を伸ばすことはできません。児童生徒の主体性をいかに育むか。そのヒントは家庭学習にあります。Chromebook と Google Workspace を活用すれば、“協働”を軸に、児童生徒の主体性を伸ばす家庭学習が安全かつ効果的に創造できます。その具体的な方法を、山梨大学教育学部准教授の三井一希氏に伺いました。



### 背景・課題 Before

#### 簡単な宿題を“学校で”予行演習する

1人1台端末での家庭学習は、教員、児童生徒、保護者全員にとって新しい取り組みです。だからこそ、走り出す前の準備が重要だと三井氏は話されました。「まず児童生徒に対しては、いきなり自宅で Chromebook を使わせるのではなく、一度学校で家庭学習の内容に取り組ませるのがよいでしょう。『Google Classroom に

コメントを残してみよう』といったように、簡単な課題で児童生徒を慣れさせていくのです。保護者に対しては、いかに巻き込むかがポイントですので、こまめな情報発信を心がけるべきです。学級だよりや保護者面談等で、持ち帰りのメリットと必要性を伝えて、可能なら実際に Chromebook に触れてもらいましょう」



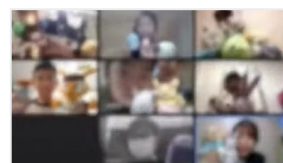
山梨大学 教育学部 准教授  
三井一希氏

### 導入のポイント Point

#### Google Meet を活用した「オンライン自習会」の試み

準備ができたらぜひ実践ですが、具体的にどんな家庭学習を出すのがよいでしょうか。「私の知るある中学校では、家庭学習のはじめの一歩として、「オンライン自習会」を実施していました。従来の家庭学習のように一人孤独

に勉強するのではなく、互いに率先して漢字の勉強の仕方を紹介し合っていました。家庭学習環境下でも、互いの顔を見ながら話し合い、助け合うといったような、協働を軸として主体的に理解を深めていく姿が見られました」



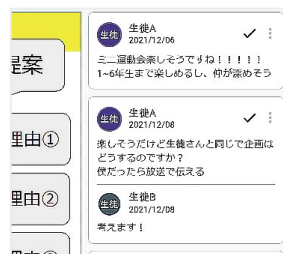
Google Meet を活用した「オンライン自習会」で自宅にあるモノを紹介し合っている様子

### 導入効果・活用 After

#### 協働を軸に、学習の質と児童生徒の主体性を飛躍させる

Chromebook と Google Workspace を活用した家庭学習のメリットは何でしょうか。「それは互いに刺激を与えながら学べる点です。例えば発表用の課題を Google スライドで作成する場合、多くの児童生徒が互いにコメントをつけあったり、他の児童生徒のスライドからアイデアをもらったりして、よりよいスライドをつくらうと努力します。クラウドでつながっていること、つまり協働できることが、学習の質、そしてモチベーションの向上に

大きく役立つのです。先に挙げた「オンライン自習会」はまさにその好例。最初こそ指導が必要ですが、流れをつかんだ児童生徒たちは続きの学習を自分たちで進めていきました。協働的であることが、児童生徒を主体的にさせる重要なエッセンスなのです。三井氏は「オンライン自習会」のように、すぐに実践できる家庭学習事例をたくさん集めたハンドブックを作成しました。何をすればわからない方も、まずは実践してみたいかたがでしょうか。



作成したスライドについて、他の児童生徒からコメントをもらっている様子

※2022年10月取材



Category 02

私立

02



# 開智未来中学・高等学校

埼玉県加須市麦倉 1238

<https://www.kaichimirai.ed.jp/>

## Google Workspace for Education Plus を用いた 安心・便利な ICT 活用と学びの場

埼玉県最北東端の加須市に位置する開智未来中学・高等学校は、2011年に新設された私立学校です。開校当初から教育へのICT活用を積極的に進めてきた同校では、Google Workspaceを導入し、全生徒への端末配布も実施。2021年にそれまでの無償版エディションから有償版のGoogle Workspace for Education Plus(以下、Education Plus)に切り替え、生徒・教職員・保護者が安全かつ便利に利用できる共有環境の構築に取り組んでいます。



### 背景・課題 Before

#### 早期から ICT 環境を整備し学びへの活用を推進

開智未来中学・高等学校では、開校当初からICT活用に積極的に取り組み、デジタルリテラシーの強化に力を入れています。2017年から全生徒への端末配布を実施し、2022年7月に行った「学習用端末に関する調査」では、端末がすでに日常的な道具として浸透していることがわかる結果となりました。2022年3月まで2

代目校長を4年間務めた現理事長補佐の加藤友信氏は、開校当時からICT導入を一任され、現在も学校法人開智学園全体のICT管理・推進役を担っています。そして同氏のもと、2021年11月にEducation Plusが導入されました。教員に対しては、2022年3月からChromebookも配布しています。



理事長補佐  
加藤 友信 氏  
(前開智未来中学・高等学校校長)

### 導入のポイント Point

#### 個人認証によるアクセス制御でセキュリティのさらなる強化に臨む

同校に赴任する以前は県立高校で教員を務めていた加藤氏が、当時から最も重視していたのが、個人認証です。その頃、端末を誰が使ったのか管理できず問題になっていたため、1人に1つの認証を与える取り組みを先駆的に始めたといいます。Education Plusに着目したのも、個人認証によるアクセス制御を強化するという方針

にフィットするのが大きな理由でした。同校ではここ数年、クラウドの本格活用をスタート。基本的にはオンプレミスで構築してきた仕組みをクラウド上へそのまま移行するイメージで、セキュリティを確保しながら生徒も教員も便利に使えるようにするため、Education Plus導入は最適な選択であったと加藤氏は振り返ります。



### 導入効果・活用 After

#### 生徒・教員・保護者の間で Google ソリューションの利活用が進展

テナントの構成は、アクセス権をいかに設定・制御するかを中心に考えて設計しました。教職員共有、教材配布、生徒共有という3つのドライブを設置し、それぞれのアクセス権を細かく定めています。加えて、途中から保護者にもサブドメインアカウントを付与し、保護者向け共有ドライブも設定しました。教頭補佐でICT推進部長の役割も

担う新居良太氏は、「イベントの画像や動画を安全かつ迅速に共有できるようになった点や、人数制限して実施した体育祭の来場募集をGoogleフォームを通じて保護者アカウントに送り、人数把握が簡単に行えた点などでは、保護者にサブドメインを付与した効果も感じています」と話します。



教頭補佐 兼 ICT 推進部長  
新居 良太 氏

※2022年取材



開智未来中学・高等学校 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-kaichimirai.pdf>





# 野田学園中学・高等学校

山口県山口市野田 56

<https://www.nodagakuen.ed.jp/>

## 教育プラットフォームとして Google for Education を活用し 主体的・協働的学びを実践する野田学園中学・高等学校

山口県の中心部に位置する野田学園中学・高等学校は、1877(明治10)年創立と長い歴史を誇る私立中高一貫校です。生徒数は中学 222 人、高校 796 人の計 1,018 人という規模で、15 年前に全教室でインターネット回線を整備し、GIGA スクール構想に先駆けて 1 人 1 台端末化を実施するなど、教育への ICT 導入に早くから取り組んでいます。同学園では教育プラットフォームとして Google for Education を採用し、Chromebook と Google Workspace を活用したより良い学習環境づくりに力を入れています。



### 背景・課題 Before

#### 早くから校内インターネット回線を整備し、ICT 導入を積極推進する

野田学園では、2007 年に教育の ICT 化を見据えて全教室でインターネットを利用できるように整備。2016 年度からは中学校でタブレット端末導入をスタートしました。さらに、2018 年度には Google Workspace を導入。その翌年度から Chromebook 導入を始め、2021 年度に高校の全生徒への導入が完了しています。理事

長・校長の牛見正彦氏は、「私自身が生物の教員として教鞭を執っていた当時から、映像が持つ教育効果を高く評価しており、電子黒板を導入するなど、映像を活用した授業改善に取り組んできました。そのうちに時代が変わり、端末が低価格化してきたことも後押しし、1 人 1 台端末の導入を積極的に進めるに至りました」と語ります。



理事長・校長  
牛見 正彦 氏

### 導入のポイント Point

#### 生徒たちの主体的・協働的な学びにつながる ICT 活用を目指す

Google Workspace を導入する以前、中学校では他の教育プラットフォームを使用していました。しかし、実態は教員から生徒に課題を出すときに使う程度で、主体的・協働的な学びにつながる活用方法はできていなかったと、情報教育室長として ICT 活用推進役を担う宮原秀貢氏は回顧します。「学園全体でより広く活用できる教育

プラットフォームを探していました。先進校を視察する中で、当時の G Suite for Education (旧称) は生徒 1 人 1 人の意見をリアルタイムに確認できることに可能性を感じ、かつ Google ドライブでのファイル共有を無料で利用できることも魅力的だったため、採用を決めました」(宮原氏)



情報教育室長  
宮原 秀貢 氏

### 導入効果・活用 After

#### Google for Education が多彩なシーンでポジティブな変化をもたらす

学習面での変化については、学習に向かう姿勢が主体的になりつつあるようです。紙のノートを回収することなく学習状況を頻りにチェックできるようになり、教員からの課題提出やフィードバック、振り返りアンケートなども手軽に行えることで、生徒たちに学習習慣が身につく、基礎学力が向上している確かな感触があるといいます。一方、Google for Education は教員の業務にもさまざまな

プラスの影響を生んでいます。たとえば Google ドライブで資料を共有することで、職員会議のペーパーレス化が進んでいます。今後について宮原氏は「授業内容や探究活動で生徒がまとめたものなど、ありとあらゆるコンテンツをアーカイブ化し、それらをもとに新たな学び、より深い学びを創造していけたら素晴らしいと思います」と語ります。



※2022 年取材



野田学園中学・高等学校 事例資料はこちらからダウンロード

<https://services.google.com/fh/files/misc/gfe-cs-nodagakuen.pdf>

# しっかりサポートで安心! 導入や活用に関するなるほど! なヒントや事例を紹介

こういうときはどうしたらいい? 他の学校はどうやっているの? そんな疑問の解消や、Chromebook 活用のヒントをまとめたお役立ち情報です。上手に使って、導入時や授業に活かしてみてください。



### Google for Education 教育 DX パッケージ

教育現場での DX を推進するための  
パッケージ ソリューションをご紹介します。

<https://goo.gl/dx-package>



### Google Workspace for Education 申し込み方法のご案内

これから Google Workspace を申し込まれる  
教育機関の皆さまのためのガイド

<https://goo.gl/gws>



### Google for Education GIGA School

学校の先生や IT 管理者、教育委員会や学校の  
管理職の皆さまに役立つ情報を掲載しています。

<https://giga.withgoogle.com>



### 活用ライブラリ

日頃から実践されているコミュニティの先生方の  
実践ヒント集

<https://goo.gl/library>



### Google for Education 導入事例

日本の学校の導入事例動画をまとめた  
プレイリスト

<https://goo.gl/video-jp>



### Google Classroom ビデオシリーズ

Google Classroom の活用方法をまとめた  
プレイリスト

<https://goo.gl/classroom-jp>





## 活用方法や成果の事例 ②

日本の学校や組織の革新的な学習環境づくりの取り組み

制作

2023年5月

編集・発行

Google for Education

---

### お問い合わせ

Google for Education お問い合わせ事務局

 0120-905-860  [gfe-jp-isr@google.com](mailto:gfe-jp-isr@google.com)

【受付時間】9:00～18:00 月曜日～金曜日（祝祭日、年末年始除く）

Google for Education 公式サイト お問い合わせフォーム

[https://edu.google.com/intl/ALL\\_jp/contact/](https://edu.google.com/intl/ALL_jp/contact/)

Google for Education 公式サイト

<https://edu.google.co.jp>

# Google for Education

Web サイトはこちら

<https://edu.google.co.jp/>

